

- A. 日時 2010年11月11日(木) 18:00~20:00
- B. 場所 建築会館 306会議室
- C. 出席者 森山主査, 山田幹事, 山田先生, 広田, 長岡, 山名, 栗岡, 峯岸, 油野, 中濱
計10名(順序不同, 敬称略)

D. 配布資料

- ・No. 5-1: 委員会議事次第(森山)
- ・No. 5-2: 前回打合せ議事録案(中濱)
- ・No. 5-3: 防火委員会資料(山田幹事)
- ・No. 5-4: 「煙制御指針講習会」会告(森山)
- ・No. 5-5: 査読回答書(各章担当者)
- ・No. 5-6: 海外事情の紹介(油野)

E. 審議事項

1. 議事録の確認

- ・特に問題もなく、了承された。

2. 防火委員会報告

- ・防火委員会の組織について、以下の報告があった。
 - ・火災後の現場調査を行う委員会が設置予定(上杉先生, 安部先生)。
 - ・区画の設計・施工指針作成小委員会では、防火材料のパンフを修正する予定。
- ・本委員会の予算額は16万円であるが、2万円しか使っていない。他委員会の余った予算も利用して、煙本の図表修正に利用予定。
- ・2011年度の委員会活動計画案として、海外の防排煙規定の調査、大空間等における防排煙上の課題、モデル化+シミュレーションを挙げた。
- ・「関数電卓による火災性状予測計算」(シンポジウム資料の位置づけ)を正式な本として出すために、原田先生が主査の「火災性状予測ハンドブックWG」が設立予定。本委員会のメンバーも何名かがメンバーに入る予定。
- ・次年度大会の大会では、「新宿雑居ビル火災」、「火事に強い木造建築」をテーマに研究協議会等が開催される予定。
- ・OS案として、「木質防火の新しい試み」、「火災安全工学から総合防災へ」が予定。本委員会も「煙制御方式・煙流動予測手法の新たな試み」でOS案を提出した。

3. 煙本

- ・差読者3名に対する、第1章~第6章の査読回答書をまとめた。
- ・本来、査読回答書を差読者に送付し承認を得る手順であるが、スケジュールの関係上、承認を得ずに煙本を修正した。森田氏から差読者へ、お詫びの一文を添えて送付する予定。
- ・査読回答書に関して以下の議論があった。
 - ・差読者1-第4章-No.8に、「114条区画」に関する記述が求められたが何故か。
 - 114条区画自体が特殊であるので記述しておけば、という指摘と思われる。
 - ・差読者3-第1章-No.1に、「火災事例へのWTCの追記」が求められたが対応をどうするか。
 - 追記対象は1回目のWTCテロかもしれない。ただし、被害者は少ないため記載しない。
- ・差読者1-第3章-No.1に、煙制御設備に対する要求レベルの表現について指摘があった。この指摘については、性能上必要不可欠な事項と望ましい事項とに表現を分けた。
- ・差読者2-第6章-No.5の「Smoke bomb」の日本語表記は、発煙筒とした。

- ・「経年変化」と「経年劣化」の使い分けについて、校正時に見直す。

4. 講習会

- ・講習会の会告案について説明があった。東京は3/1、大阪は3/2に開催予定。大阪は近畿支部のメンバーが対応予定。
- ・発表タイトル「加圧防排煙告示に関する今後の動き」の「に関する今後の動き」を省く。
- ・発表方法（パワポまたはワードデータの直接表示）は、基本的に発表者に任せる。
- ・照画カメラがあれば、煙本の直接表示が可能となり、資料に線等も発表時に引ける。

5. 海外の防火事情

- ・油野委員から、海外の防火事情について報告があった。以下、概要をまとめる。

<Fire Engineering (Engineer)>

- ・Fire Engineerは専門職として重要視されている（建築家はEngineerではない）。
- ・建築の知識より、火災の物理現象を良く勉強している（バックグラウンド：構造、Civil等）。

<法規>

- ・規定の項目・内容は日本より細かいと思われる。むしろ、仕様レベルを上げておいて、性能設計により下げさせるやり方である。
- ・旧38条に類似した”Alternative Approaches”が規定され、Engineerの発想が生かせる。
- ・日本の業務方法書のようなものではなく、シミュレーションにも特に制限は無い。

<防災計画書>

- ・防災計画書は仕様設計であっても、シナリオクライテリアに基づく避難計画や煙制御計画が求められる。
- ・設計フェーズ毎に作成され、順次承認を得る。そのため、内容の精度が上がっていく。

<審査>

- ・性能評価の制度は日本と類似（専門委員会で評価→行政の許認可）。行政側がサードパーティーレビューを雇うこともある。
- ・評定時には設計図書は持ち込まず、パワポや動画で説明するのが主流。
- ・審査の認定書が貰えるセミナーがある。官民、産官学の交流も多い。Arupでも消防に1週間研修に行くこともある。

<質問・議論など>

- ・海外でルートB的な評価はあるか。→ ルートBまではいかないが、仕様規定がルートA+B。
- ・審査側に裁量があるため、評価に自由度がある。ただし、権限が大きい分、審査側は大変。
- ・設計火源の抛り所は。→ SFPAハンドブック等。基本は αt^2 火源。
- ・認可のスピードは。→ 設計ステージ毎にチェックするのでPJでの検討時間は長い。海外は日本のような総合設計事務所・ゼネコンがないので、専門家による設計チームが結成される。

次回の委員会は、2011年1月13日（木）18:00～20:00まで、本会会議室で開催します。

- 議題（1）煙本の最終チェック
（2）今後の活動内容 等

（社）日本建築学会 〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20 TEL 03-3456-2051 FAX 03-3456-2058